

〔研究論文〕 地域の自然を生かした総合的な学習の時間の実践的研究

Action Research on The Integrated Studies Period in Local Area Nature Settings

花 島 秀 樹

Hideki HANASHIMA

北九州市立大蔵小学校

(2017年1月31日受理)

平成28年8月26日に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が取りまとめられた。ここでは、新しい学習指導要領等の理念を、「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子供たちに必要な資質・能力を育成することと整理されている。また、「社会に開かれた教育課程」を実現するために、「アクティブ・ラーニング」の重要性についても提起されている。本稿では、次期学習指導要領の改訂に向けて提起された「アクティブ・ラーニング」の視点を踏まえ、地域の自然を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発及び思考ツールを活用した授業実践について報告する。

キーワード：総合的な学習の時間、アクティブ・ラーニング、思考ツール

1. はじめに

平成28年8月26日に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において示された「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では、新しい学習指導要領等の理念を、「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子供たちに必要な資質・能力を育成することと整理されている。また、「社会に開かれた教育課程」を実現するために、「アクティブ・ラーニング」の重要性についても提起されている。ここでは、「社会に開かれた教育課程」についての重点が次のように述べられていた。

- ・ 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会をという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ・ これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ・ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を

活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。さらに、「アクティブ・ラーニング」に関しては、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために共有すべき授業改善の視点として、その位置付けが明確に示された上で、「主体的・対話的で深い学び」の具体的内容が次のように整理されている。

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
 - ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
 - ・ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。
- 以上のことを踏まえた授業改善が今後、学校

教育において求められることとなる。

ところで、「思考ツール」の有効性について、田村学(2015)が、次期学習指導要領改訂の最大のキー・ワードは、「アクティブ・ラーニング」であると指摘した上で、子供が自ら課題の解決に向けて学ぶアクティブ・ラーニングを実現するには、探究のプロセス(①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現)を意識することがポイントとなる。この四つのプロセスの中でもとりわけ難易度が高いのが、「①課題の設定」「③整理・分析」である。なぜなら、この二つはなかなか授業としてイメージしにくく、実現も難しい。この難易度が高い場面で、「思考ツール」が活躍すると述べている。

本稿では、次期学習指導要領の改訂に向けて提起された「アクティブ・ラーニング」の視点を踏まえ、地域の自然を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発及び「思考ツール」を活用した総合的な学習の時間の授業実践について報告する。

2. 北九州市立大蔵小学校における「総合的な学習の時間」

(1) 本校の概要

北九州市立大蔵小学校(以後大蔵小と略記)は、明治45年に尋常小学校として開校し、創立105年目を迎えている。北九州市の中央部に位置しており、校区の中心を板櫃川が流れ、東西方向は丘陵地であり、川を中心に自然環境が大変豊かである。地域住民はこの板櫃川に大蔵川という通称名を付けて地域のシンボルとして、強い愛着をもっている。なお、本稿では以下、板櫃川を大蔵小学校の校区を流れている区間について、大蔵川と表記する。



図1 大蔵小学校の付近 (Yahoo! Japan)

本校区は八幡製鉄所の創業と共に発展してきたが、製鉄所の規模縮小に伴う、人口流出のため、ピーク時の昭和18年には児童数2853名、学級数46を数えたが、本年度は児童数223名、学級数9の小規模校となっている。

北九州市の中でも八幡東区は地域住民の高齢化が進んでいるが、本校区内においては、地域住民の44%が65歳以上であり、14歳以下の子供は8%に過ぎず、高齢化率が高い地域である。なお、地域住民は歴史のある本校に対して愛着をもっており、本校の教育活動に対してゲストティーチャーやスクールヘルパー、ボランティアとして数多くの方々が積極的に関わっている。

これまで本校は、初等理科教育全国大会や福岡県教育委員会委嘱研究発表会、北九州市社会科教育研究大会などの数多くの研究大会を開催している。また、学校給食文部大臣表彰、九州図書館教育コンクール優秀校、福岡県NHK合唱コンクール金賞受賞などの実績を残している。

さらに、平成20年度より、北九州市教育委員会「学校大好きオンリーワン事業」の研究委嘱を受けて、3期9年間にわたり「総合的な学習の時間」の実践研究に取り組み、毎年研究発表会を開催して広く批評を仰いでいる。

(2) 本年度の研究構想

① これまでの研究成果と課題

本年度の研究構想を立案するに当たり、昨年度の研究成果と課題を次のように整理した。

《成果》

- 思考ツールを各学習段階で効果的に活用していくことで、児童相互で考えを深めたり、まとめたりすることができた。(可視化することで、児童自らの考えを広げたり、まとめたりする思考を助け、自分の考えを持ったり、話し合いをスムーズに進めたりすることができるようになった。)
- ポートフォリオを効果的に活用することで、児童が自己の学びの成果を学び合いの場で、進んで生かすことができるとともに、児童への支援に役立てることができた。
- 児童自身に、教科との関連を意識させることで、各教科等の学習で身に付けた力を生かすことができてきた。また、単元の指導計画や他教科との関連表を作成し、総合的な学習の時間と他教科等の相互で学習した内容を活用できるようにしたことで、教師が常に授業

で意図的に指導を進めることができてきた。

- ・ 第3期2年次までの研究から全体的な成果として、全国学力・学習状況調査の結果に大きな伸びが見られた。身に付けさせたい確かな学力が定着してきた。(主に児童の情報活用能力)

《課題》

- ・ 児童の思考を広げたり、深めたりする効果を得るために、児童の発達段階や活動のねらいに即した思考ツールの使い方を十分に理解させる必要がある。(思考ツールの活用)

- ・ ワーキングポートフォリオや学習資料の取捨選択、整理する時間の確保はできていたが、振り返りカードやパーマネントポートフォリオについては効果が限定的であった。(実践・評価の工夫)
- ・ 指導時期を明確にし、各教科との関連が計画的に進められるように改善していく必要がある。

ここで、本校が取り組んできた「総合的な学習の時間」の実践研究の第3期(平成26年度～28年度)の年次計画を表1に示す。

表1 「総合的な学習の時間」の実践研究の第3期の年次計画

年次	第1年次(平成26年度)	第2年次(平成27年度)	第3年次(平成28年度)
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態調査 ・ 1単元70時間の単元構成の見直しと新カリキュラムの検討、新カリキュラムに基づく試行的実践 ・ 探究的な学習を一層充実させるための指導方法の検討とその実践 ・ 他教科等との関連を重視した指導計画の作成と実践 ・ 学習指導案形式の見直しと新指導案形式による授業の実践 ・ 児童の実態(変容)調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態調査 ・ 新カリキュラムに基づく授業の実践とカリキュラムの修正 ・ 情報活用能力やコミュニケーション能力を高める指導の実践 ・ 考えを深め合い、生かし合う場の指導の工夫と授業の実践 ・ ポートフォリオを効果的に活用する授業の実践 ・ 他教科等との関連を重視した授業の実践 ・ 児童の実態(変容)調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態調査 ・ 新カリキュラムに基づく授業の実践とカリキュラムの評価・情報活用能力やコミュニケーション能力を高める指導の改善 ・ 考えを深め合い、生かし合うための思考ツールを活用した場の指導の工夫とその改善 ・ ポートフォリオを効果的に活用する授業の改善 ・ 他教科等との関連を重視した授業の実践とその評価 ・ 児童の実態(変容)調査

② 研究目標と重点項目

これまでの研究成果と課題を踏まえて、本年度の研究目標を「地域の人・もの・こと・自然を学習素材として教材化し、探究活動を協同して行う学習体験を積み重ねることを通して、子供たち一人一人に大蔵のまちのよさや魅力を実感させるとともに、自ら地域に働きかける態度や情報活用能力、コミュニケーション能力などの問題解決に必要な学ぶ力を育てる。」とした。さらに、重点項目を以下の3項目に整理して実践に取り組むことにした。

- ・ 地域を愛する心を育てる。大蔵のまちのよさを再認識する単元構成を行う。
- ・ 既習事項か未習事項かどうかを明確にするための年間カリキュラムの作成と実践及び評価を実施する。

- ・ 情報活用能力やコミュニケーション能力を高めることにつながる、考えを深め合い、生かし合う場を設定する。

③ 研究の着眼点と具体的な手立て

a. 大蔵のまちのよさを再認識させる単元構成

児童が大蔵のまちのよさを再認識し、地域を愛することができるようにするために、大蔵の地域の人・もの・こと・自然を教材とした単元展開を行う。その際、児童自身が、その領域における自分の認識を明確にすることのできる導入での活動を行ったり、他の地域と交流を行う活動を位置付けたりすることを通して、これまでもっていた見方や考え方を深めることができるようにする。また、学年間・教科間での関連を明確にした実践を行うことができるようにするために、総合的な学習の時間で育てる子供の思考のつながりを明確にする。

b. 確かな学力を身に付ける他教科との関連を明確にしたカリキュラムの作成

総合的な学習の時間が他教科の活用や補完の場となり、確かな学力を身に付けることができるようにするために、他教科との関連を明確にした年間カリキュラムを作成する。また、総合的な学習の時間の学習段階で、関連のある他教科で学習した内容が既習事項であるか未習事項であるかどうかを明らかにする。さらに、その単元への関連が、単元の内容と関連するような内容的側面をもつものか、思考ツールの活用と関連するような方法的側面をもつものを明確にする。そうすることで、活用できる場面において学習内容の押さえ直しを図り、さらなる習熟を促すことができるようにする。このように、教師が意図的にこのカリキュラムを実践していくことを通して、総合的な学習の時間の実践を通して、より確かな学力を児童に身に付けさせることにつながっていくと考えられる。

c. ポートフォリオの活用

子供たちが調べた情報や、これまでの自分の考えなどを活用し、主体的に話し合い活動や交流・実践を行うことができるようにするために、総合ファイルを用意し、ワーキングポートフォリオとして活用する。さらに、そのポートフォリオに、探究のプロセスごとの自己評価を行ったものを付加したり、地域の人材についての資料を挿入したり、思考ツールを活用したりして

いくことで、児童の思考の深化や発信の基盤とする。

また、現在の学びが総合的な学習の時間のどの過程におけるものであるのかを振り返ることができるようにするために、学習時に探究のプロセスを示したパネルを提示したり、学びの過程を随時更新したりしながら残していくようにする。このことを通して、思考の連続性を重視しながら総合的な学習の時間を充実させていく。

d. 思考ツールの活用

児童が得た情報や考えを、整理・分析することができるようにするために、思考ツールを活用する。また、この思考ツールを生かして、個人思考、集団思考の場を設定する。その過程の中で整理・分析された情報や考えから得られた新たな事実とは何かを明確にし、学習に活用することで考えを深めさせながら総合的な学習の時間の学びをより一層充実させていく。

e. 各領域の概念的知識の整理

本校では、3年生「地域」、4年生「高齢者福祉」、5年生「環境」、6年生「まちづくり」の領域を総合的な学習の時間で取り組んでいる。しかし、それぞれの該当学年でのみ、その領域での思考を育てるわけではなく、4か年を通して、子供達に育むことをねらいとしている。そこで、表2に示す子供達に身に付けさせたい概念的知識を整理した。

表2 各領域の概念的知識

領域	3年	4年	5年	6年
地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵のまちには、たくさんのお年寄りがあるんだ。 ◎ 地域の人みんながみんな支えているから、大蔵のまちができていくんだ。 ○ この大蔵のまちを大切にしていきたいな。(社会・総合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵のまちにはたくさんのお年寄りがいる。それを地域の人たちが支えているんだ。 ○ お年寄りの方々を大切にしたい気持ちから、地域の活動がとても活発なんだね。(国語・総合・道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然が豊かな大蔵のまちを地域の方は『誇り』に感じている。 ○ 大蔵川を「地域の宝物」と呼ぶくらい大切にしている。 ○ 地域みんなが大蔵川を大切にしているんだね。(総合・学校行事) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ もっとよいまちにするために、たくさんの方が協力して話し合ったり、さまざまな活動をしていくんだね。 ○ 自分にできることを続けていきたい。(総合・地域行事)
福祉(高齢者)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵のまちには、たくさんのおじいちゃんおばあちゃんがいるんだ。(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すばらしい特技をもったお年寄りがたくさんいるんだ。 ○ すばらしい特技をもったお年寄りも、体の痛みやさみしさなどの悩みがあるんだ。 ◎ お年寄りを大切にしたいな。(国語・総合・道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の川(大蔵川)や山々の景色などが、高齢者の心の癒しになっているんだ。(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵のまちは高齢者率が高いんだ。 ○ 誰もが住みやすい町にするには、ユニバーサルデザインなどが大切なんだ。 ○ 自分にできることを続けていきたい。(国語・総合)

環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵川はきれいな川だ。川に入って遊べるすばらしい川だ。 ◎ 珍しい魚や生き物がたくさんいるよ。(総合・学校行事) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵川は、地域の人々の癒しの場になっている。 ○ 大蔵川を、地域の人々は誇りに感じている。 ◎ おじいちゃんおばあちゃんにとって大切な川だから川を大切に守っているんだ。(総合・学校行事) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵川は地域の自然豊かな美しい川だ。大蔵川の魅力をもっとみんなに知らせたい。 ◎ 大蔵川の魅力を輝かせ続けるために、自分の出来ることを続けていきたい。 ○ 環境の変化に気付き、自然を大切にしていきたい。(国語・理科・社会・総合・学校行事) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵の町は、高齢者の方が多い。 ◎ 大蔵川はもちろん環境保全のためにはわたしたちが守り未来につなげることが大切なんだ。 ○ 自分にできることを続けていきたい。(理科・社会・学校行事)
まちのみと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵のまちにはたくさんの方の自慢(人・もの・こと・自然)があるんだな。(社会・道徳・総合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の方々にとって、住みよいまちにしていきたいな。(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大蔵川は、まちのシンボルだ。 ○ 大蔵川を守る活動は、大蔵の人々のきずなを深めているんだな。(理科・総合・道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過去から今のまちづくりに生かせるものがあるんだな。 ◎ 大蔵をつくってきた人たちは多くの努力をしてきたからこそ今の大蔵があるんだな。 ○ 自分にできることを続けていきたい。(総合)

2. 地域の自然を生かした「総合的な学習の時間」の授業事例

(実践者: 稲福雅子, 対象: 5年1組児童 26名)

ここでは、本校が地域の自然や人的資源を生かして取り組んだ総合的な学習の時間の実践の中から、地域の方々が愛着をもつとともに地域の自然のシンボルでもある「大蔵川」をテーマにして実践した授業の概要等を紹介する。

(1) 地域の自然を生かした単元展開

児童にとって身近な存在であるとともに、地域のシンボルでもある大蔵川をテーマに総合的な学習の時間の単元構成を行った。

まず、単元の導入段階では、既習事項や大蔵川についての知識を整理するために、思考ツールとしてイメージマップを描かせた。この内容を見ると、大蔵川は、オヤニラミなどの絶滅危惧種なども生息するきれいな川であるということを学級の児童全員が認識していた。しかし、川にいる水棲生物や植物について観察したり、調査したりした経験もつ児童は、ほとんどいなかった。

そこで、毎年9月に学校と地域との連携行事として800名以上の参加者によって実施されている、「大蔵川クリーン作戦」に向けて、事前に大蔵川の清掃活動がなぜ行われているのか考えさせ、目的意識をもって川の清掃に取り組めるようにした。また、清掃活動に参加している地

域の方々へのインタビューを行って、大蔵川に対する思いや願いを認識することができた。

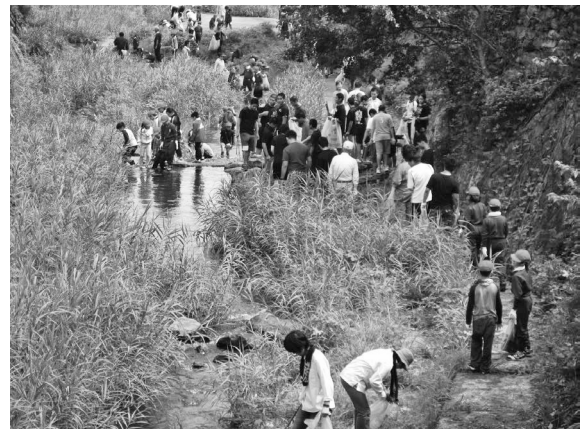


図2 大蔵川クリーン作戦

このことを通して、子供たちは、地域の方々が大蔵川に愛着をもつとともに、絶滅危惧種を初め多様な生物が生息する大蔵川の環境保全に努めていることを認識し、大蔵川の水質や水棲生物を調べたいという課題意識をもっていった。

次に、大蔵川での水棲生物の観察を行い、その際に五感を通して感じた疑問や課題を思考ツールとして、クラゲチャートやフラワーチャート、KJ法等を用いて意見交流を行って整理していた。この活動を通して、「絶滅危惧種が生息する大蔵川の水質は、本当にきれいなのか詳しく調べたい。」という、総合的な学習の時間における新たな探究課題が設定された。

また、探究活動の中の大蔵川の水質を調べる学習活動では、北九州市環境ミュージアムの担当者にゲストティーチャーとして協力してもらい、専門的な視点も加えながら大蔵川上流（豊町）と大蔵川中流（大蔵小学校前）の水質調査を行った。



図3 大蔵川の調査活動の様子

今回のバックテストやpH等の指標を基に、大蔵川は全体的にはきれいな川ではあるが、水質が必ずしもよくないところに生息する水棲生物も存在することを知り、絶滅危惧種やゲンジボタルの幼虫などが生息する条件などについても調べたいという意識をもっていた。大蔵川の調査結果をもとに、北九州市環境ミュージアムの担当者から「虫がいるからそれを食べる魚がいる。魚がいるからそれを食べる他の生き物がいる。水をきれいにしてくれる貝類や水生昆虫類がいるからオヤニラミやホタルがいる。食べ物になるプランクトンがいて、植物があるから隠れ家や産卵ができる。その繰り返しです。その自然環境のバランスが保たれている中に人間もいる。大蔵川はすごくよいバランスをもった川です。」という説明を受けた後、子供たちは、疑問や課題等を交流し合い、「大蔵川の魅力を調べて、地域に発信しよう」という新たな学級における共通の学習課題を設定した。その後、子供たちは、「大蔵川の植物」、「大蔵川の水質」、「大蔵川のホタル」、「大蔵川の魚」、「大蔵川的环境と様子」、「大蔵川に関わる地域の人」の6つの課題別のグループを編成し、学習活動に取り組んだ。

さらに、大蔵川を守る会の方々にもゲストティーチャーとして、大蔵川的环境や川の歴史について講話をしてもらった。これらのことを通して、子供たちは、大蔵川の水棲生物や水質、地域の方々の大蔵川に対する思いや願い等を認

識するとともに、環境保全についての意識の高まりも認められるようになった。

(2) 他教科との関連を明確にしたカリキュラム構成

総合的な学習の時間のカリキュラム構成を行う際には、総合的な学習の時間と各教科との関連を明確にした年間計画表を作成した。

本授業実践に際しては、教師側の指導上の資料として活用することにとどまらず、図4に示す子供たちと一緒に作成した単元の学びの過程の掲示物の下段に他教科との関連事項を貼付して、子供たち自身に学習過程と他教科との関連事項の振り返りを促しながら学習を展開することができた。

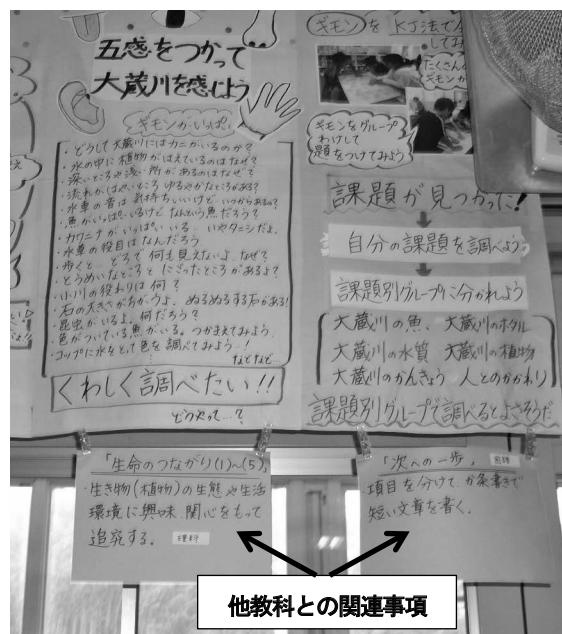


図4 学びの過程

(3) ポートフォリオの活用

大蔵川クリーン作戦や水棲生物及び水質調査などの野外における活動、思考ツールを活用した意見交流、ゲストティーチャーによる講話など多様な学習活動において感じたことや学んだことをポートフォリオとして蓄積させた。また、思考ツール等を活用して、意見交流を図りながら「課題の設定」や「整理・分析」する活動においては、児童がこのポートフォリオを用いたり、教室に常時掲示している単元の学びの過程を参照したりしながら、学習活動に取り組んでいた。

また、自分の考えを振り返ったり、自分の考えと他の児童の考えとを比較したりする際には、

このポートフォリオを児童が主体的に活用しながら、身を乗り出して意見交流をする姿が見られた。



図5 意見交流の様子

(4) 思考ツールの活用

アクティブ・ラーニングの実現を意図して、「課題の設定」と「整理・分析」の場面で、思考ツールを活用した。思考ツールについては、

子供たちがいつでも使えるように思考ツールの一覧資料を学級に常備し、総合的な学習の時間に限らず、他教科の学習でも意図的に活用させてきた。ここでは、大蔵川の魅力を「水質のきれいさ」「自然の豊かさ」「人々の願いや思い」の3つの視点で分け、思考ツールとしてYチャートを用いて大蔵川の魅力について整理・分析し、本単元の終末段階では子供たちが、「大蔵川はきれいだと思っていたけど、学習した今、一番の魅力は、大蔵の人です。クリーン作戦や川がきれいなのは大蔵の人が大切にしてきたから今があると思いました。」「地域の方の思いを次に大人になる私たちが、守りつないでいかなければならない。そのために実践していきたい。」という感想を記述していた。この後、子供たちは、「大蔵川の未来を考え、環境を守っていきたい。」という、次単元に向けた共通の課題を新たに設定し、学習活動に取り組んでいった。

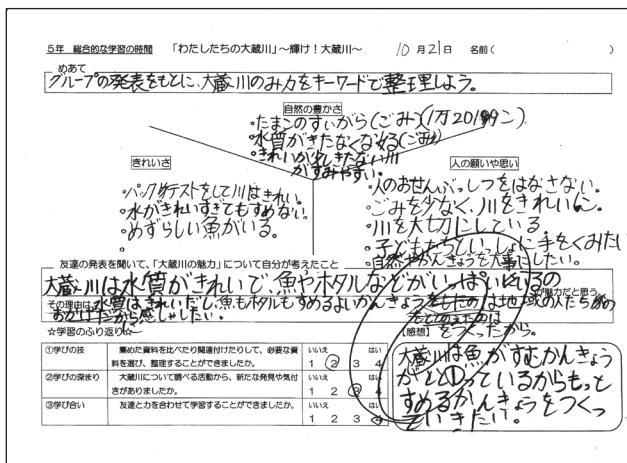
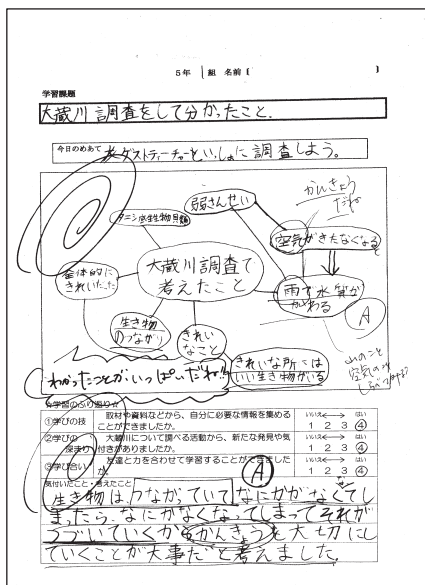


図6 思考ツールの例

(5) 実践成果と今後の課題

① 実践成果

本実践では、地域の自然（大蔵川）を生かして、総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行った。

子供たちは地域の自然のすばらしさを実感するとともに、学習活動を通してふれ合った地域の方々の大蔵川に対する思いや願いを認識し、自ら環境の保全に向けての行動化への意欲を高めている。また、アクティブ・ラーニングを実現するため、探究のプロセスを意識して授業を

展開してきた。子供たちは、思考ツールやポートフォリオを活用して、自己の学習活動を振り返って次につなげようと主体的に学んだり、他教科で学んだ見方・考え方を働かせて探究のプロセスの「課題の設定」や「整理・分析」に粘り強く取り組んだりしていた。そして、地域の自然、そして物的資源でもある大蔵川や地域の人的資源を生かした単元展開や地域の方々や専門的な立場の方々からの学びを通して、自己の考えを形成する姿が認められたことを成果として指摘できる。

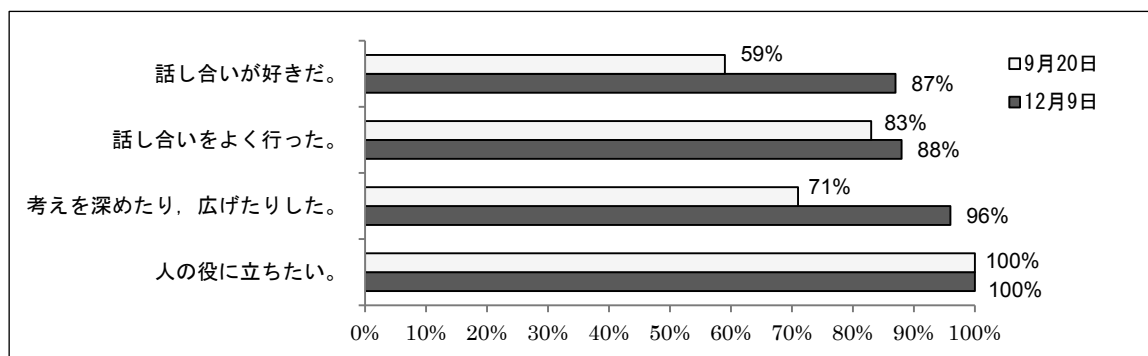


図7 実態調査の結果

図7は、本実践事例の導入段階の平成28年9月20日と終末段階の12月9日に実施した総合的な学習の時間に関する実態調査の結果である。ここでは、肯定的回答（「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」）を集計して示した。

この結果の中で、導入段階から終末段階にかけて回答率の伸びが最も高かったものから順に示すと、「話し合い活動が好きだ。」という設問について、28ポイントの伸びが見られた。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」という設問についても25ポイントの上昇が認められた。「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。」という設問に対しては、5ポイントの伸びにとどまるものの、約9割近くの子供たちが肯定的に回答していた。これらのことから、意欲的に意見交流に臨んだことや自己の学びを深めることができたことを子供自身が実感していることも指摘できよう。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」という設問に対しては、導入段階、終末段階ともに肯定的な回答率が100%となっているが、「あてはまる」と回答した児童が、導入段階の58%から終末段階では88%へと大きく伸びていた。このことについては、総合的な学習の時間に限らず、他の教科・領域及び学校行事等の他の要因が作用したことも考えられるが、地域のシンボリックな自然である大蔵川を生かした単元構成や地域の方々との対話を重視した授業効果として指摘することができよう。

② 今後の課題

今後の課題としては、子供が自ら課題の解決に向けて学ぶアクティブ・ラーニングを実現するために、探究の過程における思考ツールの効果的な活用場面の検討と総合的な学習の時間への接続を意識した生活科のカリキュラム開発と

その授業実践の2点が指摘できる。

3. おわりに

本稿では、次期学習指導要領の改訂に向けて提起された「アクティブ・ラーニング」の視点を踏まえ、地域の自然を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発及び思考ツールを活用した授業実践の事例として、地域の方々が愛着をもつとともに地域の自然のシンボルでもある「大蔵川」をテーマにして取り組んだ5年1組の授業の概要を報告した。本校区は、恵まれた自然、そして地域の絶大なる学校支援等、次期学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子供たちに必要な資質・能力を育成するために必要な教育資源が整っている。本稿を通して得られた課題と成果を踏まえ、本研究の深化と拡大を図っていきたい。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」 2016年
- ・田村 学著 「授業を磨く」 東洋館出版社 2015年
- ・宇佐美 寛、池田久美子著 「対話の害」 さくら社 2015年
- ・大高 泉編著 「新しい学びを拓く理科授業の理論と実践」 ミネルヴァ書房 2013年
- ・藤村裕一著 「アクティブ・ラーニング対応 授業改善のための学習指導案」 ジャムハウス 2015年
- ・寺尾慎一著 「豊かな学びをひらく授業の構想」 梓書院 2009年
- ・寺尾慎一著 「総合的学習の発想力・構想力」 明治図書 2001年
- ・文部科学省 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 2007年